



学校だより

彩雲燦燦

令和7年9月19日

文責：校長 原 佳織



「みなかみ」「ダムにて」「銀の魚」「川の祭」「河口」と全部で5曲からできている合唱組曲「筑後川」という曲があります。5つの曲名から想像してみてください。筑後川が阿蘇で一滴の水として生まれ、そしていろいろな試練を経てダムに入れられたり滝になって落ちたり、周辺の百万の農業や生活の水として役立って、人間の生活を支えながら大河となって最後に海に出ていくという情景が連想できませんか？構成されている5曲とも大好きなのですが、その中で私

にとってかけがえのないのが最終曲の「河口」です(右歌詞)。

私は中学3年生の4月に山口県の学校に転校しました。転校は慣れていましたが、なかなか打ち解けることができずにいました。そのような中、9月から合唱コンクールの練習が始まりました。10月終わりの合唱コンクールで歌うのは課題曲と自由曲の2曲。そのうちの課題曲が「河口」でした。ダイナミックな前奏で、海へとたどり着く最後のときに向かう強さや大きさが感じられ、歌が始まる前にこの曲のもつ醍醐味を味わうことができます。そして、それまで積み重ねてきたことに対する満足感や達成感、自分を応援してくれているように感じるラスト。とても難しい曲でしたが、クラスの人々と一生懸命に練習しました。休み時間も放課後も休みの日も。暇さえあれば集まって練習三昧。練習は大変でしたが、たくさん声を掛け合ったことで転校生の私にとってようやくクラスの友達と繋がりをかみしめることができた時間でした。合唱コンクール本番のステージでこの曲を歌いきったとき、なぜか涙が出てきたことを覚えています。自分たちの歌声で満たされた空間に浸り、一緒にがんばったクラスの人々と同じ時間を過ごすことができたと思っただけで「幸せだ」と感じていたのではないかと今なら思えます。私たちの周りにはたくさんの「繋がり」があります。その繋がりを感ずることが自分を幸せにしていけるのだと思うのです。すべての人に、その「幸せ」を感じてほしい。「幸せ」をみんなを感じ合えるために、私にできることは何か、太宰府西中の一人ひとりにできることは何か。自分を大切に、そして自分と同じように仲間を大切にするとともに、誰に対しても何に対しても感謝を忘れず、そして一生懸命であることだと思います。

終曲（フィナーレ）を
こんなにはっきり予想して
川は大きくなる
終曲（フィナーレ）を
華やかにかざりながら
川は大きくなる

水底のかわいい魚たち
岸辺のおどけた虫たち
中州の可憐な小鳥たち
さよなら さよなら
河は歌う さよなら
紅の槿の葉 楠の木陰
白い工場の群よ
さよなら さよなら
河は歌う さよなら

筑後平野の百万の生活の幸を
祈りながら川は下る 有明の海へ
筑後川 筑後川
その終曲（フィナーレ）ああ

先輩たちを超える次代の太宰府西中を創りたい！



校門付近で行われた朝の選挙活動

令和7年度も折り返しの時期となってきました。そのような中、第41期生徒会役員改選の取組が行われました。朝の登校時、帰りの会等で立候補者が生徒に向かって、「もっと太宰府西中を進化させたい」「挨拶あふれる学校にしたい」「生徒全員が生徒会活動に積極的に参加する学校にしたい」「笑顔あふれる学校にしたい」など、目指す学校の姿を自分の言葉で訴えていました。太宰府西中の未来をどうしていきたいのかを真剣に考えているからこそ、訴えている言葉に力を感じます。9月12日（金）に行われた立会演説会では、立候補した生徒の皆さんの心からの思いをみんなで受け止め、これからの太宰府西中について真剣に考えることができました。たくさんの立候補者がいたからこそ、たくさんの意見や思いに触れ、太宰府西中の未来を「みんなで」思い描くことができた素敵な時間でした。これから第41期生徒会始動への準備が始まります。今からワクワクします！

